

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) <p>『ひなたばっこができるホーム』を夢見て『ひなた』と名付けられた。地域に貢献できる事業として設立されたが、開設から日も浅く、新しい管理者を迎えて職員も心機一転、力を合わせて体制を整え、試行錯誤しながら介護理念の実現に向けて頑張っているところである。そういう中でも、職員がそれとなく行う身体ケアは細やかで、日常生活の基礎をしっかりと支えることができています。また、看護師が2名いること、医療機関との連携がよく行われていることは、利用者や家族、職員に安心感をもたしている。</p> <p>緑の中の広い建物という環境に恵まれて、利用者がのんびり、ゆっくり過しているように見えるのは、『いつも、私達がそばにいます。』『笑いと楽しみのある、普通の生活をして頂きます。』といった理念が実現されているからだと思う。どちらのユニットでも、周りを巻き込んで歌や踊りに力を発揮する利用者が居て楽しい雰囲気を作っている。また、別の一角では、洗濯物をたたんでいたり、字を書いたり、それぞれに合ったこともしている。この和やかな空気は、グループホームの認知症ケアの基本と心の交流の仕方にあるように、職員全員が、利用者の心情を理解しようと努力している日常のあらわれと思う。しかし、職員の気持ちも強制でなく、押付けでない態度で時には利用者へ伝える事も必要かも知れません。</p>
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
利用者一人ひとりの経歴や背景等を十分に理解した上で、静かに寄り添って話を聴いたり、じっくりと本音を聞き出すことに更に力点を置き、内面的ケアの充実を図って欲しい。それには選択肢をいくつも用意するなど、認知症の人にも答え易くするための会話の工夫も必要である。
利用者の希望も入れながら、身体機能維持や気分転換、社会との接触等の目的で、外出・散歩・運動など、室内に閉じこもらない活動や役割をこなすことも、しっかり取り組んで欲しい。
地域に開かれたホームを目指し、家族やボランティアの協力を得ていくことが、職員だけではできない喜びや交流をもたらさし、また、社会への還元ともなると思う。
食事の時間を色々な意味で大切にしていきたい。食べる楽しみの他、配膳や片付け、献立作り等できる楽しみや会話の楽しみ等様々な形で利用者には大切な時間となる。職員も一緒に楽しむ時間にしていきたい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	利用者に対するホームで現在している基本的な生活支援は、排泄ケアや健康チェック・医療機関との連携など身体面のケアであり、記録をとりながらプライバシーを尊重した適切なケアがなされている。今後は、精神面のケアについて更にレベルアップを図って欲しい。 一人ひとりの現在の能力、かつて発揮していた力、そして輝いていた頃の生活振りや経験、その人を取り巻く環境など、その人の全容を示す情報の取得に努め記録に残し、全職員が共有して利用者に対応して欲しい。 歌を歌ったり笑いを引き出す会話をしたりという、一時的、表面的な楽しさだけでなく、そばに寄り添い、ゆっくり話を聞いて精神的安定をもたらす、その人の本当になりたいことを引き出してあげることをして欲しい。また、役割や趣味などを持たせてあげ、充実感のある生き活きと生活をさせてあげられるよう、研修と経験を積んで欲しい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、		
	開設から日が浅いこと、管理者の異動により内部体制の確立が急務であったことなどにより、まだこれから取り組みをはじめることが山積状態である。この時期に当たって、このホームの良い点は、管理者と職員が良く話し合っており、試行錯誤しながらも良い方向を目指して頑張っていることにより、ケアに対する意識レベルをさらに上げて欲しい。 また、『私たちにすべてお任せ下さい』ではなく、本人は勿論、利用者の家族や友人、地域社会の人々、ボランティアなど応援してくれる人達の協力を得ていくことが、ホームを地域に開放していくことになり、職員だけではなかなか出来ないことに取り組んでいけるようになるのではないのでしょうか。そのような協力をして貰うためにも、ホームからの情報発信を、家族の力を借りながらも取り組んでいくことをお勧めしたい。		

事業所名 グループホーム ひなた

日付 平成17年8月2日

特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験17年

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	介護理念として職員全員がいつも心掛けて介護しているという『笑いと楽しみのある普通の生活』『ゆっくりとしたリズムで自然と触れ合いのある生活』『いつも私達がそばに。』といった項目については、玄関等にも掲示してあり、日常のケアの中でも理念が具体化され実現している状況を多くみることができた。 理念の後半の『できることは自分で』『家族・地域の人との触れ合い』『自立・意志・役割などの尊重』については、現在具体化の計画中のものもあり、今後の展開を期待したい。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	居室はその人らしい生活をして貰うために、写真入り表札をかけ、家具や道具など各自自由な使い方をしている。リビングをキッチンや居室が取り囲む配置は、職員による利用者の見守りを助けている。 菜園や庭など広い敷地・緑の多い周囲の環境を、利用者のリハビリや楽しみ、家族や地域の人たちとの交流の場として、有効に活用していきたい。また、建物内の空間も、生活を豊かにするもの、心が癒されるものを考えて配置して欲しい。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		